

出来ることから、無理なく、気楽にはじめ、楽しみ広がるN I E ～みんなで楽しくかかわろう～

指定校2年次 上田市立長小学校 宮原 美恵

1 本校のN I Eの現状

実践1年目は、3学期に2年生と5年生でN I Eの授業公開を行った。

2学期までは、教育課程「図画工作科」研究発表校、真田地区学習指導研究大会『算数』の授業公開があったために、N I Eの取り組みとしては当初、配達されてくる新聞を5～6年生の教室前の廊下に、児童に読みやすく展示することを徹底した。

休み時間には、好きなスポーツ選手の活躍を喜ぶ児童や、地域の自然や動物の写真に興味を示す児童などが集まり、自然に会話が弾んでいる様子が見られた。しかし、関心の高まりは、高学年の児童の間では見られたが、全校に広がるまでにはいたらなかった。

そこで、実践2年目になる本年度は、昨年の方向をさらに進めて、もっと全校に新聞とかかわる楽しさを積極的に広げたいと考え、実践を試みた。

1学期は、全校児童が通る昇降口近くの中央廊下に、多様な「記事の切り抜き」を掲示し、児童ばかりでなく職員の日にも触れやすくした。次第に足を止めて、新聞を見る児童が多くなり、低学年も、写真や4コママンガに興味をもち、記事を見るようになった。職員間でも、新聞のニュースが自然に話題に上るようになり、関心の高まりや広がりが見られた。

特に、今年度前半のサッカーワールドカップにおける日本チーム活躍の記事は、多くの児童の興味を引いていた。また、全校で行った「土砂災害訓練」の後、各地で大雨の被害のニュースが発生し、緊張感を持って記事を読んでいた。

2 N I E実践のねらい

- (1) 児童の言語力を向上させる。(言葉の使い方や表現の仕方を広げる。)
- (2) 社会的事象に対する興味・関心を広げ、情報を取捨選択する力の基礎を養う。
- (3) 身近な地域の自然や生活の営みに対する情報を共有し、人と人とのつながりから成りたつ生活のあり方を考える力を伸ばす。
- (4) 教師集団の社会認識及び情報の共有化と隣人コミュニケーション力の向上をはかる。

3. 研究の概要

- (1) 全学年で、学年の発達や児童の実態に合ったN I Eを実践する。
- (2) 図書館教育におけるN I Eの実践を試みる。
- (3) 信毎の学習シートを活用する。
- (4) N I E実践による学力向上の成果を検証する。

4. N I E 実践の内容

(1) 全学年におけるN I E の実践

学年	教育活動・教科等	○活 動 ☆成 果 ★課 題
1 年	<p>「新聞アート」 ～新聞をもっと身近 に感じよう、新聞で思 い切り遊ぼう～ (図工)</p> 	<p>○新聞紙を、床一面に敷き詰めて、マジックやガムテープを自由に使えるようにして、「自由に遊ぶ時間」(図工の造形遊び)を実施した。</p> <p>☆寝転んで、「新聞プール」で泳いだり、ねじって、つないで縄跳びにしたり、帽子・洋服・カバン・ボール・剣・盾・ちぎって雪にして降らせたりと、子どもの発想は、無限であることが分かった。</p> <p>★活動の後の片づけ (ゴミが大量に出してしまうこと)</p> 
2 年	<p>「新聞から、カタカナをさがそう」</p>	<p>○ 探しやすい、見出しや広告から、カタカナで書かれた言葉をさがし、印をつけてから切りとる。</p> <p>○ 3～4人の班で、切り取ったカタカナ言葉を分類し、4つ切り画用紙に貼る。分類は、</p> <p>① 外国から来た言葉 ②外国の人や場所の名前 ③擬音 ④その他(よく分からないものを含む)程度に簡単にする。</p> <p>○ カタカナ言葉を集めたり分類したりして気づいたことを話し合う。</p> <p>☆ 新聞には、多種多様なカタカナ言葉が溢れている。切ったり貼ったりが簡単に出来る。</p> <p>☆ 集めて切って貼る作業は書き写すよりも簡単で楽しい。</p> <p>☆ グループで協力しながら取り組める。</p> <p>★「ケータイ」「カンタン」など、本来は漢字で書く言葉が、カタカナで表されていることについての理解が難しい。</p>
3 年	<p>「信毎学習シート」を使って (主に国語)</p>	<p>☆子どもたちに親しみやすさを感じさせる記事を使った学習シートで、写真のイメージを利用し、内容の読み取りの力を高めることができた。</p> <p>☆教科書の単元に合わせて、記事を紹介しながら学習を発展させた。</p> <p>☆普段自分たちが使わない表現「～のような」という修飾語を使うと、言いたいことがわかりやすくなり、伝わりやすいことに気づき、日記や作文などに生かそうとする子が増えた。</p>

		<p>★A4判では文字が小さく読みにくい。拡大して使用した。</p> <p>★拡大、カラーコピーのための印刷代が厳しいこと。</p>
4年	<p>国語</p> <p>「新聞記者になろう」</p>	<p>☆記事を書いた後、見出しを意識して新聞作りを行うようになった。</p> <p>☆調査をして記事を書くという体験を積むことで、文章を書くことに対する苦手意識が少なくなってきた。(個人差はある。)</p> <p>☆書ける文章の量や質が、新聞作りを通して少しずつ高まってきている。大勢の人に読んでもらうという意識が、子どもを向上させている。</p>
5年	<p>新聞紙でエコバッグを作ろう</p> <p>(家庭科)</p>	<p>○家庭科の「住みよい暮らし」の、エコグッズを作る学習で取り上げた。</p> <p>☆捨てられてしまう新聞紙から、エコバッグができることに驚きを感じられた、</p> <p>☆丁寧な説明書があり、作り方がよくわかった。製作が困難な子は友だちと相談しながら仕上げることができた。</p> <p>★計画した時間よりも製作時間が超過してしまった。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史新聞づくり (社会) ・修学旅行新聞づくり (国語) ・生き方に学ぶ (道徳) 	<p>○4年生の新聞づくりを参考に、見出しのつけ方、記事のまとめ方や段の分け方を工夫して、歴史新聞を作った。</p> <p>☆新聞社の方の出前授業が、指導の参考になった。</p> <p>☆編集会議などのグループ学習により、文章表現への意識が変わり、言語力が向上した。特に、国語の力があまり高くない児童にとって、効果的だったと思われる。CRT学力検査にも反映された。</p> <p>○信毎配信学習シート「魁皇1000勝～あきらめず23年～」を使い、担任以外が授業を行った。</p> <p>★年間計画に前もって予定することが難しい。予定されている学習内容の入れ替えには十分配慮したい。</p> <p>☆『今』を資料に授業を行うことは、子どもたちの関心意欲を高めることがわかった。</p>
全校	<p>読書旬間の新聞ラリー</p>	<p>☆全校児童のほとんどが自主的に取り組んだ。先生方にも好評を得た。学年の枠を超えて、教え合う姿があった。</p> <p>☆マナー化している読書旬間の取り組みに、新鮮さと手軽さが加わり、本の世界を広げるきっかけになった。</p> <p>☆記事を拡大すると、親しみやすく読みやすい。学習シートにも意欲的に取り掛かれる。</p>

(2) 4年生「新聞記者になろう」(国語科の全校研究)

【国語科研究テーマ】

「伝え合う力」を高める指導は、どうあったらよいか

～新聞を活用し、言語感覚を育てる～

【テーマ設定の理由】

本校は、全校児童119名。家庭数87。各学年1クラスの小規模校である。3世代同居の家庭が多く、学校もひとつの大きな家族のようなまとまりがある。戸外で、作物や植物を育てる活動に汗を流すことを楽しみ、学年を超えた友だちと関わり合いながら、活発に遊ぶ児童が多い。また、読書への関心が高く、図書館の利用が多いことも、本校の特色である。恵まれた自然環境の中で、素朴に、のんびり、楽しい学校生活を送っている。

しかし、いつも決まった仲間と交わされる会話や日常生活の話題だけでは、児童の「伝え合う力」を高めたり、その知的好奇心や興味関心を広げたりすることは、難しい面がある。

子どもたちがこれから生きていくであろう、広く複雑な人間関係を考えると、自分の考えや思いを相手に伝えたり、自分と違った考えも受け止め認めたりすることができる、柔軟な心の育成は、本校の大きな課題のひとつでもある。

そこで、より広く、地域や社会に対する目をむけ、情報を集め、色々な考えや生き方に触れる意味で、学習や生活に、新聞を活用したいと考えている。昨年、本校は、NIEの実践指定校となり、複数紙が配達され、授業や児童会活動などで取り上げたりしたことによって、『新聞を身近に感じ、新聞を楽しむ』という感覚が、少しずつ広がってきている。

高学年は、好きなスポーツ選手の活躍や生き方の話題で仲間と盛り上がったり、低学年は、新聞から珍しい写真を見つけて友達に紹介しあったり、という姿が見られた。新聞は、児童の言語感覚を養う上でも、コミュニケーション能力の向上にも、効果的に活用できる素材である。

本年度も、国語科では、新聞を活用し、児童の「伝え合う力」を更に高め、言語活動を広げていくことを目指していきたいと考えている。

【22年度 育てたい子ども像】

- 自然・ひと・ものとかかわって、自らの課題を、自らの力でねばり強く追究する子ども
(追究する力)
- 友を大切にし、友だちと共に自分を高めていこうとする子ども
(自己を振り返り、自己を向上させていく力)
- なりたい自分やはっきりした目標を持ち、主体的に取り組み、そのことを実現していく子ども (挑戦する力)

【国語科で目指す子どもの姿】

- 相手や目的に応じて、伝え方を工夫しようとする子
- 学年の発達に応じて、漢字の読み書き、言葉の決まりや使い方など、基礎・基本がしっかり身につく子
- 内容の中心をとらえながら話したり聞いたりする中で、相互に伝え合う喜びを感じ、相手の考えや思いを大事にできる子
- 読書を楽しみ、生活の一部に読書が根付く子。
- 自分の考えや思いを、相手に進んで伝えようとする子

《教科目標》

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めると共に、
思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる

【研究会における指導の要点】

- 国語科では「伝え合う力」が重要。新聞は正誤適美醜などの言語感覚を育てることができ、多様な場面や状況に応じて使える。新聞を題材に取り上げたことは非常に良い。
- 相手意識、目的意識がはっきりしていると、どんな方法で書くかが決まる。
- 新聞を作ることが目的化しないようにしたい。
→ 新聞をつくるためにするのではなく、色々伝えたいことがある、どのように伝えるか、どんな媒体を参考にするか、と考えたときに手段の一つとして新聞がある。

【児童の変容】

- 記事を書いた後、見出しを意識して新聞作りを行うようになった。
- 調査をして記事を書くという体験を積むことで、文章を書くことに対する苦手意識

が少なくなってきている。(個人差はある。)

- 書ける文章の量や質が、新聞作りを通して少しずつ高まってきている。大勢の人に読んでもらうという意識が、子どもを向上させている。

(3) 6年生 信毎学習シート「魁皇 1000 勝～あきらめず 23 年～」(道徳) を使って

『大関魁皇』は、1988年の春場所土俵から、けがに悩みながらも23年間『あきらめず』に一つずつ白星を積み重ねてきました。1000勝という史上2人目の偉大な記録を残した『大関魁皇』の努力に学びましょう。

<児童の学習シートより>

① **あなたは、魁皇の1000勝にどんな思いを持ちましたか。**

- あきらめずに23年間やってきた努力が1000勝につながったと思う。
- 14歳から始めて、23年間で1000勝するのはすごいと思いました。引退するまで、あと45勝してほしいです。
- やっぱり、あきらめないことは大切だと思いました。みんなに、希望を与えてくれると思いました。

② **「ここまで来たら、納得するまで相撲がとれればいい」と、力を込める魁皇の気持ちを考えましょう。**

- (ア) あと45勝以上したい。もっと勝ちたい。たくさん勝ちたい。
- (イ) ほっとしている気持ち。自分の23年間を振り返っている。
- (ウ) 自分らしい相撲を取って、ファンの人に拍手をもらいたい。
- (エ) 1045勝は超えられなくても、相撲を見に来てくれる人に楽しんでもらえればいい。
- (オ) 1046勝などで1位をとるのではなく、誰もこせないような白星で、1位になりたい。

③ **大関魁皇は、私たちと同じくらいの年齢の時に、初土俵を踏み、23年間で記録を達成しました。「私の23年後」を考えてみましょう。**

- (ア) まだわからないけれど、目標を持ってあきらめないようにがんばりたい。一人でも尊敬されたい。
- (イ) 自分も他の人に一人でもいいからあこがれてもらえるような人になりたいです。
- (ウ) あきらめずに、何でもいいからその目標に向かってがんばりたい。
- (エ) 私はあまり新聞とか相撲も見ません。だけど、今日、道徳の時間でこのことを教えてもらいました。大関魁皇は、けがに悩みながらもあきらめないでやっていることに感心しました。私も自分の目標に「あきらめていないかな」と思います。

(オ) 私も自分で好きなことを見つけて大関魁皇さんのように、あきらめない人になりたいです。

(カ) 14歳はまだ子どもなのに、あきらめずに37歳までずっとやってきてすごいと思いました。私も今、好きなことを続けていきたいです。

<中学校向けとなっていたが、次の点で6年生にも良い資料で、使いやすい学習シートだった。>

- (1) 記事の長さが丁度良く、読みやすい。
- (2) 内容がわかりやすい。(23年間で、1000勝。更に記録にむかって。)
- (3) その生き方に子どもが素直に共感できる。(感動する。地道に一步一步。初土俵は14才)
- (4) 発問がわかりやすい。「23年後の自分を想像してみよう。」とても良い。子どもたちが、自分の将来に希望を持ってすすめる資料や発問になっている

《学習シートをつかって、道徳の授業を行った ☆成果 と ★課題》

☆『今』を資料に授業を行うことは、子どもたちの関心意欲を高めることがわかった。

★年間計画に前もって予定することが難しい。予定されている学習内容の入れ替えには十分配慮したい。

(4) 学校図書館における NIE の実践

情報発信地としての学校図書館で、どのようなNIEの活動ができるか、図書館司書の先生と国語科及び司書教諭との連携をとりながら、その可能性を広げたいと考え実践した。

①信濃毎日新聞の学習シートを使って、記事をきっかけに学校図書館の本を紹介する。

(担任と、司書教諭のブックトーク、「野生生物と人」とのかかわり)

②「朝日小学生新聞」その他の新聞記事をきっかけに、「ものしりコーナー」を設け、本を紹介する。

③読書旬間に、「新聞ラリー」を図書館で行う。

- ・ 配信された学習シートの中から、写真が大きく子どもたちの興味を引きやすいものを選んで、模造紙大に拡大し、簡単なクイズを作る。
- ・ クイズは、低学年用と高学年用の両方を作る。
- ・ クイズだけでなく、新聞を使った簡単な工作も体験出来るようにする。
- ・ 記事に関連した本を、同時に目に入りやすいよう特別に配架・展示する。

5 NIE実践による学力向上の成果

(1) 学校図書館における「貸し出し冊数(児童一人当たり)」の増加

21年度の学年	貸し出し冊数	22年度の学年	貸し出し冊数
		1年生	205.6冊
1年生	159.8冊	→2年生	261.8冊
2年生	153.1冊	→3年生	185.4冊
3年生	91.5冊	→4年生	99.1冊
4年生	148.3冊	→5年生	167.1冊
5年生	132.7冊	→6年生	114.6冊
6年生	106.9冊		

☆低学年の貸し出し冊数が特に伸びている。

☆昨年度、貸し出し数が一番少なかった4年生が、わずかではあるが多くなっている。

☆秋の読書旬間には、新聞ラリーを行ったこともあり、来館者が特に多く、貸し出し数も伸びた。

☆朝日小学生新聞を掲示し、関連する本を児童の目に触れやすいようにした。『自然科学』や『社会科学』『芸術』分野の貸し出しが昨年度より増えた。

☆全校児童の読書に対する関心が、昨年度より高まった。冊数の増加ばかりでなく、借りる本の分野が広がっている。他の要因も関連しているだろうが、2年間継続してNIEに取り組んできた成果が現れていると思われる。

(2) NRT・CRT分析に見る学力の向上(2年間「NIE」に取り組んだ6年生)

		内容	5月(NRT)			2月(CRT)		
			学級 得点率	全国 得点率	全国比 (全国100)	学級 得点率	全国 得点率	全国比 (全国100)
領域別	I	国語への関心・意欲・態度				80.2	78.4	102
	II	話すこと・聞くこと	76.8	71.9	107	90.3	88.4	102
	III	書くこと	66.8	62.5	107	73.5	73	101
	IV	読むこと	66.2	60.2	110	83.7	78.7	106
	V	言語事項	73.6	64.5	114	86.8	76.5	113

☆すべての領域で、目指す力をつけることが出来たといえる。

☆個人差に対応して自分のペースで学習できるよう、オリジナルの漢字テスト等を作成し、学習ペースの違いに目を向けて取り組んできた成果が見られた。

☆「目的や意図に応じた表現を工夫する」「事柄を整理して書く」力が伸びた。新聞作りを行い、表現の仕方について継続的に学習してきた成果が見られた。